

IVRにより治癒し得た Segmental Arterial Mediolysis (SAM) が疑われた1例

たか	なし	とし	ひろ	まつ	ぼら	たけし	ひら	はら	のり	ゆき	
高	梨	俊	洋	松	原	毅	平	原	典	幸	
ひやく	どみ	りょう	じ	かわ	はら	だい	すけ	は	り	よう	こ
百	留	亮	治	川	原	大	輔	波	里	瑤	子
いし	ばし	しゅう	いち	うち	だ	ゆう	き	みず	たに	かず	のり
石	橋	脩	一	内	田	有	紀	水	谷	和	典
た	じま	よし	つぐ								
田	島	義	証								

キーワード：腹部内臓動脈瘤，SAM，IVR

要 旨

症例は51歳男性。突然の腹痛を主訴に当院救急外来を受診。既往歴に特記事項なく，来院時バイタルは安定していたが，汎発性腹膜炎を疑う身体所見であった。緊急造影 CT 検査で，臍頭部後方～十二指腸後方に血腫形成を認め，さらにその内部に仮性動脈瘤と同部からの出血が疑われた。外科的治療より侵襲の少ない緊急血管造影検査を診断，治療目的で施行した。その結果，下臍十二指腸動脈アーケードの十二指腸下行脚～水平脚移行部付近に仮性動脈瘤を認め，出血源と断定し coiling を施行し止血を得た。術後経過は良好で，POD 7 に自宅退院となった。腹部内臓動脈瘤の成因は様々であるが，近年，Segmental Arterial Mediolysis (SAM) が注目されている。1976年に Slavin らにより提唱された疾患概念であり，特に多発する動脈瘤の多くは SAM が原因の可能性があるとされている。基礎疾患のない中高年の腹部内臓動脈瘤を認めた際には SAM を念頭に置き，多発病変や再発等に留意する必要がある。

はじめに

本邦における腹部内臓動脈瘤の頻度は全人口の約1%とされ，脾動脈や肝動脈が主な発生部位である。その多くは破裂による突然の腹痛で発症し，

時に致命的になることもあり迅速な対応を要する。腹部内臓動脈瘤の成因としては動脈硬化や膠原病，外傷，炎症性変化等があるが，近年 Segmental Arterial Mediolysis (SAM) が注目されている。SAM は1976年に Slavin らにより提唱された疾患概念で，腹部内臓動脈の中膜が分節性に融解し動脈瘤を呈する病態である。腹部内臓動脈瘤に対する治療としては低侵襲な血管内治療

Toshihiro TAKANASHI et al.

島根大学医学部消化器・総合外科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部消化器・総合外科